

共生・協働の 地域社会づくり

わらびしま
出水市立蕨島小学校・蕨島自治会

「いきいき はつらつ 蕨島」を合言葉に

学校と地域が一体となって集落の活性化を目指す

出水市立蕨島小学校は、出水市の北西部にあり児童数14人(平成26年度末)の小さな学校で、校区には、約80世帯、約150人が暮らしています。

過疎化・少子化の影響で児童数の減少が続いたことから、平成16年度に特認校の指定を受け、校区外に住む児童を通わせるなど、児童数を確保するための取り組みを続けてきましたが歯止めはかからず、平成23年度には児童数が7人(うち特認校生4人)という状況となりました。

このままでは小学校の存続が厳しく、地域に元気がなくなってしまう恐れがあることから、自治会長や教職員、民生委員などが「蕨島小学校児童増加推進実施委員会」を発足させ、地域住民と一緒に知恵を出し合い、特認校生募集、空き家を活用した定住促進、学童保育(児童クラブ)運営、出水市内の高校生との連携など、さまざまな学校存続のための取り組みを行いました。



蕨島小学校児童増加推進実施委員会の理事会

たとえば、児童クラブの運営では、住民ボランティアが交替で指導員を務めるなど、小学校と地域が一体となって子どもと保護者が安心できる環境の整備。高校生との連携では、出水商業高校の生徒による蕨島を出水市内外にPRするための蕨島のイメージキャラクター「わらびちゃん」やイメージソング「行くよ! わらび島」の製作、住民参加のスポーツイベントの企画・運営や空き店舗を活用して写真展や無人販売などを行う地域住民の憩いの場づくりなどを進めています。

小学校と地域とが一体となり、学校行事への住民参加など、より子ども達と住民の交流が盛んになることで、子ども達はたくさんの方の前でも物怖じせず話ができるようになり、それまで家にこもりがちだった高齢者も学校に出掛けていくようにな

るなど、住民間にうれしい交流が生まれるようになりまし

た。「蕨島では、一人一人に出席と居場所がある。また、外



児童クラブで地域ボランティアと勉強



代表者からひとこと

とよなが ふじひろ
校長の豊永 藤浩さん(平成27年3月)
笑顔で楽しみながらやるのが活動を長続きさせるポイントだと、地域の皆さんと話をしています。

から来た人も温かく受け入れる包容力がある」と豊永校長は語ります。
平成26年度には、地元住民3人が「蕨島『夢・実現』プロジェクト」を立ち上げ、住民が健康で明るく、生き生きと生活を営み活気みなぎる集落へと前進するため出水市などへの提言も行われており、今後、さらに小学校と地域が一体となった取り組みが展開されていくことでしょう。



イメージソングのプロモーションビデオの撮影

共生・協働の地域社会づくりや
NPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。